

令和6年度 自然を活かす上質なツーリズム 人材育成・地域作り支援事業

募集要項

募集期間：令和6年9月2日（月）～10月15日（火）必着

令和6年9月

環 境 省

本研修は、環境省の主催であり、請負先である公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）及び一般社団法人日本エコツーリズム協会（JES）が運営します。

（昨年度事業名：令和5年度自然資源を活用した上質なツーリズムの実現に向けた人材育成支援事業）

1. はじめに

環境省では「地域の自然を活かした上質なツーリズム」を推進しています。これは、地域社会の持続的発展を目的として、地域の自然環境を基盤に、暮らし・歴史・文化を含む地域固有の価値に基づいた、来訪者が高い満足感を得られる「感動」や「学び」の機会を、地域の様々な主体が協働して提供し、ひいては自然環境の保全や環境意識の向上に寄与する観光のあり方です。従って、単なるラグジュアリートラベル、高額な旅行を指すものではありません。地域が元気になるような上質なツーリズムの推進を通じて、自然地域の保護と利用の好循環や、地域社会の持続的発展を目指しています。

こうした背景のもと、本研修は「地域の自然を活かした上質なツーリズム」に取り組む意欲のある地域の関係者を対象に、エコツーリズムやインタープリテーションに関する考え方を含む研修や講師派遣等の人材育成・地域作り支援を行い、地域における自然資源の保護と利用の好循環の実現を後押しするものです。

参加にあたっては、自然公園等のビジターセンターや博物館等拠点となる観光施設の従事者、エコツアーや自然体験アクティビティ等のガイド、これら施設・事業の管理者・経営者、さらに地域におけるコーディネーター的な役割が期待される自治体関係者や観光協会、観光地域作り法人（DMO/DMC）等の方々に、複数の組織からなる2～4名程度のチームを作り、地域として御応募いただきます（詳細は、以下3.（1）のとおり）。地域固有の価値への理解、地域の様々な関係者が連携し協働体制を構築する意味や意義、来訪者体験の質・滞在時間及び消費支出の増大に向けた取組、各種取組について事業化／自走化を目指すために重要な視点などについて、エコツーリズムやインタープリテーション、事業経営やマーケティング、環境教育、地域連携促進等の第一線で活躍する講師陣と共に学んでいきます（詳細は、以下5. のとおり）。また参加地域同士での相互の学びあい及びネットワーク形成ができることも本研修の特徴のひとつです。

研修は、事前自己研修として動画教材視聴（YouTube）、研修講師による事前面談（オンライン）、2泊3日の集合研修（11月下旬、栃木県那須高原）、事後の研修講師現地派遣等がひとつのパッケージとなっており、希望する地域には、次年度以降もフォローアップが実施されます（詳細は、以下3.（2）のとおり）。研修受講は無料ですが、集合研修に参加するための旅費等実費については御負担いただきます（詳細は、以下4. のとおり）。

本件研修の趣旨を御理解いただき、多くの地域からの御応募をお待ちしております。

2. 研修目標

本事業は、研修参加者が、①「地域の自然を活かした上質なツーリズム」の考え方を理解し、それを実現するための鍵となる知識、視点を得ること、②それぞれの地域・拠点での課題を的確に把握し、効果的な取組を行動計画に落とし込み目標を設定することを研修目標としています。

将来的には、地域の様々な関係者による連携・協働が行動計画と共に進展し、地域における環境・経済・社会の課題が同時に解決されていくような、地域社会の持続的発展を目指しています。

研修事業実施目標・成果		指標
長期的成果	地域社会が持続的に発展する。	—
中期的成果	研修を通じて作成した行動計画が進展する。 または、状況の変化に応じ改訂が行われる。	・ 行動計画の一部または全部に進展がみられる。 ・ 必要な場合、行動計画が見直される。
研修目標	① 自然資源を活用した上質なツーリズムの考え方を理解し、それを実現するための鍵となる知識、視点を得る ② それぞれの地域・拠点での課題を的確に把握し、効果的な取組を行動計画に落とし込み目標を設定できる	・ 研修参加者に上質なツーリズムの考え方（エコツーリズムやインタープリテーションに関する考え方を含む）が理解される。 ・ その実現に必要な「知識」「視点」が理解される。 ・ 研修参加者によりそれぞれの地域・拠点での効果的な取組が行動計画に落とし込まれる。

3. 研修対象者と全体スケジュール

(1) 研修対象者について

地域の自然を活かした上質なツーリズムの実現に向けたキーパーソンとなる以下①～③に掲げる人材の育成支援を行います。

主な人材	①（個人レベル） ガイド、インタープリター	②（組織レベル） ガイド事業経営者 施設管理者	③（地域レベル） 地域コーディネーター プロデューサー
所属先イメージ	ビジターセンター、自然系博物館、自然学校、観光施設、アクティビティ事業者、体験観光事業者等	同左	自治体、観光協会、DMO/DMC、商工会、協議会、自然公園管理の関係者、各種組合等
期待される役割 （育成目標）	来訪者と最前線で接する地域の顔として、地域ならではの価値を感動や学びの体験を通じて来訪者に伝え、来訪者の満足度向上を図る。	事業経営・施設運営を通じて、来訪者の満足度向上及び経済的な視点も含めた地域社会の価値向上に貢献する。	関わる各主体間を取り持ち、情報集約と共有、状況把握、働きかけを行い、来訪者の満足度向上、地域社会の価値向上及び自然環境の保全のバランスのとれた取組を促進する。

【応募にあたっての留意事項】

- 本研修は、研修の成果として作成する行動計画を地域で協働し取り組んでいく観点から、応募にあたっては、上記表のカテゴリ①～③の複数の組織の関係者からなる「チーム」（2～4人程度を想定）で御応募いただきます。必ず一人は、③のカテゴリの方を入れてください。
- 11月26日～28日に開催する集合研修は、チームのメンバー全員が、全日程に参加できるように、スケジュールの調整をお願いします。
- 地域における上質なツーリズムの推進の観点からは、③のカテゴリから自治体の観光振興課、地域振興課等の担当者の参加が推奨されます。自治体担当者が参加できない場合は、観光協会、観光地域作り法人（DMO/DMC）、商工会、協議会、自然公園管理の関係者、各種組合等の方がチームにいれば応募は可能です。
- 現在、①～③の業務に従事していなくても、今後、働くことが確実に予定されている方の応募は可能です。
- 本研修に参加後、具体的な行動計画を定め、地域の関係者と協働しつつ自走する仕組みの構築を目指す意欲のある地域を対象とします。なお、研修終了後には、取組状況や成果などについて御報告頂き、本事業の評価に御協力いただきます。
- 応募総数が募集数（12地域程度）を上回った場合、選考を行う場合があります。

(2) 事業全体の流れについて

【令和6年度】（③～⑧は全地域参加が必要、⑨は希望する地域のみ参加）

時期	事業の流れ	概要
10月15日	① 募集締切り	12地域程度を募集します。
10月中旬～下旬	② 書類審査・選定	応募書類に記載の内容を踏まえ、本事業での支援が効果的か、継続性、具体性、連携性、発展性、将来性などの観点により審査・選定を行います。

11月1日 ～22日	③ 講師との事前面談	受講決定した地域に対し、講師との事前面談を行い、研修参加にあたっての留意点や心構えなどについて助言を得たり、整理をしたりします（1～2時間程度）
11月中旬 ～11月25日	④ 事前自己研修	事務局から事前送付する教材（動画やテキスト等）をもとに、自己研修を行っていただきます。「事前自己研修」と「集合研修」は「一体的なカリキュラム」として構成されています。集合研修の参加までに履修してください。
11月26日 ～28日	⑤ 集合研修 （栃木県那須高原）	集合研修では、講義やワークショップを通して、研修成果としての行動計画づくりを行います。
12月10日	⑥ 行動計画の発表 （オンライン開催）	チーム（地域）ごとに作成した行動計画を発表し、研修講師や参加地域からフィードバックを得ます。
12月中旬 ～2月下旬	⑦ 実践 ⑧ 事後の講師現地派遣	行動計画は、集合研修後から実践に入ります。研修講師を、各地域に1名派遣（最大2泊3日程度）し、行動計画への指導、助言の他、現場視察等を行います。 参加チームの皆様には、地域の関係者の参集や、現地の御案内等の調整をお願いします。その後の取組状況等も踏まえ、年度内に成果や課題、感想、そして今後の取組等をレポートにまとめ、提出いただきます。
2月下旬	⑨ 同窓会 （オンライン）	平成29年度以降の本件研修参加地域との交流会をオンラインで実施します。希望する地域のみ参加。

【参考】令和6年度に本研修に参加した地域のうち、希望する場合は、令和7年度以降に開催予定の以下フォローアップメニューに参加が可能です。⑩～⑫は、応募者多数の場合は選考があります。⑬は希望者全員参加可能です。なお、予算の成立等に応じて、内容が変更又は中止される場合があります。

フォローアップメニュー	概要
⑩ インバウンド対応研修 （オンライン予定）	外国人観光客（インバウンド旅行者）の受入れや、対応に向けた準備事項について学ぶ研修です。
⑪ インバウンド研修（フィールド研修）	外国人観光客（インバウンド旅行者）を受入れつつ、上質なツーリズムの実現に取り組んでいる地域を訪問します。地域の様々な関係者と連携した取組を、直接見学し、研修講師から対面で話をお聞きする機会です（1泊2日）
⑫ フォローアップアドバイザー派遣（対面）	過年度の集合研修において作成した行動計画の進捗が見込まれる地域や、行動計画の変更・修正にあたって指導や助言を行うことで進展が期待できる地域に対し、アドバイザーを派遣します。
⑬ 同窓会（オンライン）	平成29年度以降の本件研修参加地域との交流会をオンラインで実施します。

4. 研修参加にかかる経費等

(1) 研修参加費用

前述3. ③～⑧に記載の研修受講費用は無料です。

ただし、⑤集合研修（11月26日（火）～28日（木）、栃木県那須高原にて実施）参加に当たり、下記に記載の集合場所までの往復交通費及び、その他の実費（宿泊費・食費等、1名あたり相部屋で36,500円程度※）については、研修参加者で御負担いただきます。

※ ホテルサンバレー那須の宿泊費 17,000円程度/1泊2食付×2泊、入湯税 150円/泊×2泊、昼食用お弁当代 1,100円/個×2日分の概算（全て税込み）。

- ・ 個室利用の場合は、別途、料金が加算されます。ご希望の際はお問合せください。
- ・ 昨今の物価上昇の兼ね合いから、今後、価格改定の可能性があります。

なお、参加者側でホテルサンバレー那須以外の宿泊場所を選ぶことも可能です。その場合、3日間を通して研修会場であるサンバレー那須までの往復交通手段や、夕食、朝食は、参加者側で手配をお願いします。

- ・ 11月27日・28日の昼食（お弁当、有料）は、ご用意が可能です。詳しくはお問合せください。
- ・ 11月27日に、サンバレー那須から出発する研修【那須平成の森フィールドセンター訪問】、【那須高原ビジターセンター訪問】時は、ほかの参加者と一緒に、送迎バスの乗車が可能です。

【集合研修日時・会場】

日 時：令和6年11月26日（火）～28日（木）

会 場：ホテルサンバレー那須（栃木県那須郡那須町湯本 203）

<https://www.nasu3800.co.jp/>

日光国立公園 那須高原ビジターセンター（栃木県那須郡那須町湯本 207-2）

<https://nasu-vc.jp/>

那須平成の森フィールドセンター（栃木県那須郡那須町高久丙 3254）

<https://nasuheisei-f.jp/>

集 合：現地（ホテルサンバレー那須）集合・解散の場合

11月26日（火）12：30 集合、11月28日（木）16：00 解散（予定）

東北新幹線・那須塩原駅前集合・解散の場合（送迎バス利用）

11月26日（火）11：30 集合、11月28日（木）16：40 解散（予定）

※ 詳細は、集合研修参加チーム（地域）に後日お知らせします。

(2) 事後の講師現地派遣について

派遣する講師の旅費（現地までの交通費、2泊3日程度の宿泊費）及び謝金については、環境省（運営事務局）が負担します。その他の費用（現地での移動費用、施設利用料、入場料、その他アドバイスの実施にあたって現地で発生した費用等）については、参加地域側にて御負担ください。

【調整・対応等のお願い】

基本的に、主催者及び事務局は同行しません。派遣地域においては、応募チーム（地域）を中心に、取組地域側にて、アドバイザーの現地での移動、説明等の同行の対応をお願いします。

5. 研修講師及びカリキュラム一覧

(1) 研修講師（派遣講師を兼任する）（予定）（50 音順）

氏名	所属	活動・主な専門分野	具体的な得意分野
江崎 貴久	(有)オズ 代表取締役／海島遊民くらぶ	ガイド事業運営／地域協議体等組織	エコツーリズムによる地域連携地域内連携／農・漁業と観光の連携手法
海津 ゆりえ	文教大学 国際学部 国際観光学科 教授	エコツーリズム論／地域観光資源活用／エコツーリズム推進協議会設立等	エコツーリズムの理念・理論／エコツーリズム推進協議会等の設立
木村 雄志	Activity Research 代表	WEB マーケティング全般、オペレーション効率化、ツアー価値や楽しさの言語化	フロー理論に基づく楽しさの言語化とツアーの改善。ウェブマーケティング全般、リピーター対策（CRM）構築、予約システム
新谷 雅徳	（一社）エコロジック 代表理事	地域住民を巻き込んだインバウンドエコツアー開発／インタープリテーションデザイン	インタープリテーションを活用したビジネスプランニング／インバウンドを対象とした高付加価値・高単価エコツアー、グランピング、ゲストハウス開発・運営
鳥屋尾 健	（公財）キープ協会 環境教育事業部 事業部長	インタープリテーション関連	特に施設運営、展示、地域連携、人材育成、団体客対応など。
西村 仁志	広島修道大学 人間環境学部教授	インタープリテーション関連	特に地域連携、人材育成、社会企業（ソーシャル・ビジネス）など。
府川 尚弘	INDIGO 合同会社ディレクター	インバウンド推進／地域連携／デスティネーションマーケティング	DMO を中心としたマーケティング機能、海外プロモーションや地域連携による取組み効果の向上
古瀬 浩史	帝京科学大学 教授／（一社）日本インタープリテーション協会 代表理事	インタープリテーション関連	特に自然公園や施設のインタープリター全体計画、個々のインタープリテーションや手法、展示、施設運営、人材育成など。
松田 光輝	（株）知床ネイチャーオフィス 代表取締役	ガイド事業運営／地域協議体等組織	環境保全と利活用にかかる協議体の組織化と運営／ガイド事業における経営・運営・商品開発・ガイド技術等全般のアドバイス
松本 毅	YNAC クラシックガイドスタッフ	ガイド事業経営	エコツーリズムガイドの技術と担い手育成、ガイド事業運営
山崎 宏	(特非)ホールアース 自然学校 代表理事	インタープリテーション関連	特に施設運営、地域連携、人材育成、団体客対応など。
川嶋 直 ※事務局兼務	(公社)日本環境教育フォーラム 主席研究員	インタープリテーション関連	特にインタープリテーションの手法、人材育成、研修設計など。

(2) カリキュラム (予定)

【事前学習】 (視聴は必修)

11月中旬頃、動画を視聴いただきます。各講座 10 分～30 分、全体で 3 時間程度。

講 座 名 称	担 当
研修のねらいと全体像	環境省
“地域が元気になる”上質なツーリズムとは	環境省
講師の自己紹介	各講師
日本型のエコツーリズムって？	海津 ゆりえ
インタープリテーションって何だろう？～その魅力と活用方法～	古瀬 浩史／川嶋 直

【集合研修】

11 月 26 日～28 日、栃木県那須高原にて実施します。

1 日目 11 月 26 日 (午後)	担 当
開会式、オリエンテーション、講師等紹介、アイスブレイク、集合研修の全体像	環境省、事務局
自然を活かす “地域が元気になる” 上質なツーリズムとは ～パートナーシップと地域の経済循環～	環境省
エコツーリズムによる観光地域づくり	江崎 貴久
感動と学びにつながるインタープリテーションの基礎	西村 仁志
インタープリテーション計画（施設型・エリア型）が地域にもたらす効果	加藤 雅寛（環境省）
デスティネーションマーケティングと地域ツーリズム	府川 尚弘
観光と地域づくり	松本 毅／鳥屋尾 健

2 日目 11 月 27 日	担 当
那須平成の森フィールドセンター訪問 (インタープリテーションの実際を体験)	那須平成の森フィールドセンター職員
那須高原ビジターセンター訪問	－
地域に根差したエコツアーの実践	新谷 雅徳
＜グループワーク：選択講座＞ ・感動と学びのガイディング・プログラム作り ・インタープリテーション全体計画 地域の関係者とともに作るテーマ（ストーリー） ・地域のツーリズムマーケティングとプロモーションの協働 ・地域内の協力体制とコーディネーターの役割	松本 毅、木村 雄志 古瀬 浩史、西村 仁志 府川 尚弘、新谷 雅徳 松田 光輝、山崎 宏
マーケットインの視点から見た商品開発と販売促進	木村 雄志
事業経営の実際	松田 光輝／山崎 宏

3 日目 11 月 28 日	担 当
これからの自然保護と利用のあり方	松田 光輝
行動計画の作成とプランニング	川嶋 直
行動計画づくり	各講師
ふりかえり、評価アンケート記入、事務連絡、閉会式	環境省／事務局

【事前又は事後学習】（視聴は任意）

集合研修終了後、12 月末までの期間で、動画を視聴いただきます。

各講座 10 分～60 分、全体で 3 時間程度（予定）。

講 座 名 称	担 当
自然体験活動におけるリスクマネジメントの基礎	佐藤 初雄
アメリカ国立公園のインタープリテーション	古瀬 浩史／古屋 絢子
テーマに基づいたインタープリテーション	古瀬 浩史
インタープリテーションの様々な道具や手法の紹介	古瀬 浩史／鳥屋尾 健／川嶋 直／西村 仁志／古屋 絢子
インタープリテーションのプログラム・デザインの手法	川嶋 直／古瀬 浩史
自然解説の組み立て	松本 毅
旅行代理店を使わない販売 ウェブマーケティングによる新規集客（広告、公式サイト、ポータルサイト）	木村 雄志
日本の自然環境の価値と意味	田中 伸彦
自然保護・モニタリング	横山 隆一
リピーター対策、ユーザー生成コンテンツの重要性、予約システムとそのメリット	木村 雄志
参加者の声	これまでの参加地域

※募集開始時点での予定につき講師・講義タイトルは変更となる場合があります。

6. 応募方法について

(1) 応募書類について

- 環境省ホームページ、本研修事務局を担う日本環境教育フォーラム又は日本エコツーリズム協会のホームページから応募フォームをダウンロードの上、電子メールにて提出してください。
- 応募フォームは、チームの構成員で話し合いの上、記載願います。
- 提出された応募書類は本事業に関する目的以外には使用しません。お預かりした個人情報は、「環境省所管事業分野における個人情報の保護に関するガイドライン」に従い管理します。なお、応募書類は返却しません。
- 応募書類は日本語で記入してください。なお、応募フォームの様式は変更せずに記入してください（記載内容に応じて、枠を広げることは可とします。）。

(2) 応募締切

令和6年10月15日（火）メール必着

(3) 応募にあたっての留意点

- 応募に当たっては、所管の自治体の観光振興課ないし地域振興課、必要に応じ自然環境課等へ御一報いただくことをご検討ください。（今後の情報共有、連携の可能性を広げるため）
- 本事業は環境省主催です。応募する地域が国立公園内又は隣接する場合は、その国立公園を所管する環境省の出先機関（地方環境事務所、自然環境事務所、国立公園管理事務所、自然保護官事務所等）にも、事前に御一報いただくことをご検討ください。（今後の情報共有、連携の可能性を広げるため）

【応募先・問合せ】

公益社団法人日本環境教育フォーラム（担当：小堀）E-mail：kobori@jeef.or.jp
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1 階
電話：03-5834-2897 ホームページ：<http://www.jeef.or.jp>
※メールで応募フォームをお送りいただいた後、土日祝日を省く 3 営業日以内に返事が届かない場合は、お知らせください。
※お問合せの際は、できる限り E-mail をご利用ください。

【事務局・環境省担当】

一般社団法人日本エコツーリズム協会（担当：坪根）E-mail：tsubone@ecotourism.gr.jp
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケイビル 3F
電話：03-5437-3080 ホームページ：<https://ecotourism.gr.jp>
＜環境省＞ 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室 電話：03-5521-8271（直通）
（担当：伊東）

よくある質問

Q：主な活動フィールドが国立公園ではないのですが応募は可能でしょうか？地域ではエコツーリズムとは銘打ってなく、例えばグリーン・ツーリズムやアドベンチャートラベルに取り組んでいるのですが、応募は可能でしょうか？

A：いずれも可能です。自然資源（里地・里山などの自然を含む）を活用した地域振興、観光振興を目指す地域であれば、どこでも対象となります。

Q：募集対象となる「地域」とは、どのような範囲でしょうか？

A：「県境を越えた自然公園全体」～「ひとつの集落」まで、「地域」と呼べる単位とします。

例 「日高山脈襟裳十勝国立公園」地域、「新ひだか町静内」地域、など。

なお、過去の参加地域一覧は別紙2を参照ください。

Q：過去に参加したことがあります、もう一度応募してもいいですか？

A：平成29年度～令和4年度までの本研修コース別研修（Aコース：ビジターセンター等施設関係者向け、Bコース：エコツアーガイド、ガイド事業者向け）に参加した地域については、全く同じメンバーによるチームでなければ応募可能です。ただし、多くの地域に参加いただきたい趣旨から、応募地域多数の場合は、初めて参加する地域が優先されることがあります。

なお、令和5年度以降の参加地域については、特段の事情がない限り再応募はお控えください。

Q：フリーで自然のガイドをしています、個人での応募は可能でしょうか？

A：1名のみでは応募できません。研修の成果として作成する行動計画を地域で協働し取り組んでいく観点から、応募にあたっては、3（1）を参照の上、2～4名程度で応募ください。

Q：自分たちの活動（事業）をサポートしてくれる都道府県又は市区町村の行政の部署、担当者などはどのように見つければよいでしょうか？

A：応募しようとする方の活動する自治体の地域振興・観光・産業・環境部署、最寄りの環境省自然保護官事務所などの担当者などに協力を打診してください。観光協会や商工会の方がサポート側のメンバーとして参加されても良いです。

Q：自治体の観光課の職員です。一緒に参加したいガイド等が10名ほどいるのですが参加可能でしょうか？

A：会場の都合及び公平性の観点から、原則としてスタッフ・事業者側の方＋サポート側の方＝合計2～4名のチームで応募してください。

Q：一部日程に参加できないメンバーがいますが、応募可能ですか？

A：11月26日～28日に開催する集合研修は、全員参加を要件としています。その他の日程でメンバーが欠ける場合、応募フォームの応募者情報【備考】欄にその旨記載ください。なお、応募は可能ですが、研修目的の達成に支障が生じると判断される場合は選考させていただく場合があります。

過年度 参加地域一覧

番号	都道府県	地域名、あるいは団体や施設名	参加年度
1	北海道	国立公園支笏湖運営協議会	H30(2018)
2	北海道	北海道南十勝町村(中札内村、更別村、広尾町、大樹町、主に大樹町)	H30(2018)
3	北海道	七飯大沼国際観光コンベンション協会	R2(2020)
4	北海道	北海道美幌町(美幌地区三町広域観光協議会)(阿寒摩周国立公園)	R3(2021)
5	北海道	北海道様似郡様似町	R4(2022)
6	北海道	中核都市函館生活・観光圏(Donan 自然学校プロジェクト)	R5(2023)
7	岩手県	岩手県陸前高田市	R2(2020)
8	岩手県	岩手県大槌町	R3(2021)
9	宮城県	宮城県石巻市及び南三陸町	H29(2017)
10	宮城県	栗駒高原ジオパーク推進協議会	R2(2020)
11	宮城県	みちのく潮風トレイル・名取トレイルセンター	R3(2021)
12	宮城県	宮城県七ヶ浜町	R3(2021)
13	宮城県	宮城県、大崎市、鳴子温泉地域(鳴子温泉郷国民保養温泉、栗駒国定公園)	R4(2022)
14	秋田県	白神山地(秋田県藤里町)	H29(2017)
15	山形県	山形県大江町	H29(2017)
16	山形県	山形県飯豊町(磐梯朝日国立公園(飯豊町南部))	R3(2021)
17	山形県	酒田市・鳥海国定公園エリア(一般財団法人酒田 DMO)	R5(2023)
18	山形県	小国町(特定非営利活動法人 飯豊朝日を愛する会)	R5(2023)
19	福島県	北塩原村商工観光課	R2(2020)
20	福島県	福島県耶麻郡北塩原村	R4(2022)
21	福島県・群馬県・新潟県	尾瀬国立公園	R2(2020)
22	栃木県	栃木県日光市湯元奥日光	H30(2018)
23	栃木県	那須塩原市(一般社団法人那須塩原市観光局)	R5(2023)
24	群馬県	尾瀬国立公園	H31/R1(2019)
25	埼玉県	埼玉県飯能市(一般社団法人奥むさし飯能観光協会)	R5(2023)
26	神奈川県	箱根ジオパーク	H31/R1(2019)
27	新潟県	新潟県妙高市	H29(2017)
28	新潟県	上越市くわどり市民の森(新潟県)	R3(2021)
29	新潟県	新潟県佐渡市(トキ交流会館)	R4(2022)
30	富山県	富山県南砺市	H29(2017)
31	富山県	立山エコツーリズム研究会	H29(2017)
32	富山県	立山黒部	H31/R1(2019)
33	石川県	石川県白山市白峰	H30(2018)

34	石川県	中能登町石動山	H31/R1(2019)
35	石川県	石川県志賀町(能登半島国定公園能登金剛 巖門、牛下地区・福浦地区・熊野地区)	R3(2021)
36	山梨県	山梨県北都留郡小菅村	H29(2017)
37	山梨県	山梨県南アルプス市芹安地域	H29(2017)
38	山梨県	山梨県富士吉田市	H30(2018)
39	山梨県	みのぶ自然の里	R2(2020)
40	山梨県	山梨県北杜市高根町清里	R4(2022)
41	長野県	長野県松川町	H29(2017)
42	長野県	長野県塩尻市	H29(2017)
43	長野県	霧ヶ峰高原	H30(2018)
44	長野県	NPO 浅間山麓国際自然学校	H30(2018)
45	長野県	ライジングフィールド軽井沢	H31/R1(2019)
46	長野県	長野県松本市(乗鞍)	H31/R1(2019)
47	長野県	さわんど温泉観光組合	R2(2020)
48	長野県	長野県原村	R2(2020)
49	長野県	長野県白馬村	R2(2020)
50	長野県	長野県松本市奈川(株式会社ふるさと奈川)	R5(2023)
51	岐阜県	岐阜県大野郡白川村	H29(2017)
52	岐阜県	岐阜県高山市国府町	R4(2022)
53	岐阜県	岐阜県高山市朝日町(飛騨あさひ観光協会)	R5(2023)
54	静岡県	静岡県沼津市・伊豆の国市	H31/R1(2019)
55	静岡県	伊豆ジオスクール設立準備委員会(静岡県)	R3(2021)
56	愛知県	長久手市もりの学舎(愛・地球博記念公園内)	H31/R1(2019)
57	三重県	三重県熊野市(吉野熊野国立公園)	R3(2021)
58	滋賀県	滋賀県米原市	H31/R1(2019)
59	滋賀県	滋賀県長浜市	R4(2022)
60	京都府	京都丹波高原国定公園	H30(2018)
61	和歌山県	和歌山県上富田町および南和歌山地域	H30(2018)
62	和歌山県	和歌山県和歌山市加太	H31/R1(2019)
63	和歌山県	和歌山県田辺市龍神村(高野龍神国定公園)	R3(2021)
64	鳥取県	鳥取県日南町	H29(2017)
65	鳥取県	山陰海岸国立公園鳥取砂丘	H31/R1(2019)
66	島根県	島根県出雲市	R2(2020)
67	岡山県	蒜山高原(大山隠岐国立公園 岡山県真庭市)	R4(2022)
68	広島県	広島県安芸太田町 三段峡	H29(2017)
69	広島県	広島県安芸太田町	H30(2018)
70	広島県	国民宿舎野呂高原ロッジ	H31/R1(2019)
71	広島県	広島県三次市	R2(2020)

72	香川県	香川県高松市	H29(2017)
73	香川県	香川県	H29(2017)
74	香川県	香川県三豊市栗島	R2(2020)
75	愛媛県	愛媛県石鎚周辺地域	H29(2017)
76	愛媛県	愛媛県八幡浜市	R2(2020)
77	愛媛県	愛媛県四国中央市新宮町	R4(2022)
78	高知県	土佐清水市	H30(2018)
79	高知県	高知県黒潮町	R2(2020)
80	福岡県	福岡県みやこ町「こもりくの森」	H29(2017)
81	福岡県	福岡県北九州市小倉南区平尾台(北九州国定公園)	R3(2021)
82	長崎県	自然公園財団(雲仙)	R2(2020)
83	長崎県	長崎県対馬市	R2(2020)
84	長崎県	五島市ジオパーク推進班(長崎県)	R3(2021)
85	長崎県	長崎県五島市玉之浦(西海国立公園)	R3(2021)
86	長崎県	長崎県雲仙市(一般社団法人雲仙観光局)	R5(2023)
87	熊本県	阿蘇くじゅう国立公園(熊本県)	H29(2017)
88	熊本県	公益財団法人阿蘇火山博物館	R2(2020)
89	熊本県	熊本県天草市(合同会社シマノタネ)	R5(2023)
90	大分県	阿蘇くじゅう国立公園(大分県)	H29(2017)
91	宮崎県	宮崎県 えびの高原	H29(2017)
92	宮崎県・ 鹿児島県	霧島ジオパーク／霧島錦江湾国立公園(宮崎県都城市、小林市、えびの市、高原町、鹿児島県曽於市、霧島市、湧水町)	R4(2022)
93	鹿児島県	鹿児島県鹿児島市 桜島地域	H29(2017)
94	鹿児島県	薩摩川内市 国定公園甕島	H29(2017)
95	鹿児島県	奄美自然観察の森	H31/R1(2019)
96	鹿児島県	鹿児島県大島郡大和村	H31/R1(2019)
97	鹿児島県	屋久島自然保護官事務所	R2(2020)
98	鹿児島県	かごしま環境未来財団(鹿児島県)	R3(2021)
99	鹿児島県	くすの木自然館(重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム)	R4(2022)
100	鹿児島県	鹿児島市グリーン・ツーリズム推進協議会(鹿児島大学農学部・唐湊の森)	R4(2022)
101	鹿児島県	鹿児島県徳之島町	R4(2022)
102	鹿児島県	鹿児島県出水市(出水市役所)	R5(2023)
103	沖縄県	沖縄県座間味村	H29(2017)
104	沖縄県	沖縄県国頭村・大宜味村・東村、やんばる国立公園	H30(2018)
105	沖縄県	やんばる自然保護官事務所	R2(2020)
106	沖縄県	沖縄県八重山郡竹富町古見(西表島、西表野生生物保護センター)	R4(2022)
107	沖縄県	沖縄県石垣市(石垣市役所)	R5(2023)